

2015年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者: 新妻ゆき子 携帯 090-2260-0671

Eメール: yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス: yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

教室だより 7月号

夏休みを活かした学習計画を

夏休みまであと1か月を切りました。梅雨があけると夏休みです。

夏休みは、これまでの学習を見直す絶好の機会です。

夏休みを利用して進度アップを図りたい場合は、1日の学習枚数を決めて、毎日続けてください。

仮に10枚学習を40日続けたとすると、400枚になります。これは、公文の教材2学年分(国語・英語は1学年分)です。実際には復習(反復練習)することもありますので、一気に2学年分というわけにはいきませんが、普段では考えられないペースで進度アップすることができます。

また、毎日学習することで、前日の学習でつかんだことが記憶に残っている状態で次の課題に取り組めるため、効率のよい学習ができます。

苦手箇所を克服する目的で、大きく戻って復習する場合でも、普段より学習負担の少ない夏休みなら、1日の学習枚数を増やすことも難しくありませんし、より早く元の学習箇所に戻れ、自信を持って新学期を迎えることができます。お子さまの学習状態に応じて、いかようにも学習計画を立てられるのが公文の強みです。

どうぞ、お気軽にご相談ください。

公文式の創始者・公文 公(くもんとおる)先生の言葉より

“やればできる! 意欲を引き出す低い出発点”

公文式では、学習を始めるにあたって必ず「学力診断テスト」をします。一定時間内での正解の数、間違いの原因など、学力の状態をつかんだうえで学習の「出発点」を決めるのです。

例えば算数の場合、小学校高学年や中学生でもたし算やひき算から始めることがあります。

しかし、それはその子ができないからではありません。負担を感じることなく楽にスラスラとできるまで習熟することを重視しているからです。

学校ではあまりいい点をとったことがない子どもでも、学年よりも低いところからスタートすることで100点がとれますから、「自分でもやればできる!」と実感でき、自信が生まれます。この段階でたくさん問題を解くことによって集中力と作業力を養います。

高い出発点と低い出発点の2人の子どもを比べると、最初は前者が先を進んでいても、長いスパンで見ると、後者のほうが進み方が速いためにどんどん差を縮め、やがては追い越してしまうというケースはよくあることです。

2015年 7月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

本市場教室日□

横割教室日△

今月のことわざ

いく どうおん
異口同音

◆「異口同音」と書かないこと。
多くの人が、言いあわせたように「同(どう)口(こう)同音(どうおん)」

「大きな花火が上がると、みんなが異口同音に「きれい」とさげんだ。」

「お兄ちゃんが「キャンプにいこうよ」と言ったら、家族みんなは異口同音に賛成した。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

ゆき子の一言コラム

【第5回】子供の学力を上げる方法

伸びている実感を持たせることが重要

「何でこんな簡単な計算ができないの…」

「こんな汚い字で書いて、読めないじゃないの。全部消して書き直しなさい！」

こうした母親のヒステリックな言葉に、泣きながら勉強をしている子どもは、さすがに最近では少なくなっていると思います。しかし、『勉強は、我慢するもの、つらいもの、嫌なこと、大変なこと』というイメージは、いつの時代の子どもたちの心の中にもあるようです。

逆に、子どもに『勉強は、面白い、楽しい、分かるととても嬉しい』と思わせることができれば、あっという間に成績は伸びていきます。

同じ学年の学習能力の差は、本当はとても小さいのです。同じくらいの子どもたちの中で比べているから、成績の高下が目立ちますが、実はほんの少しの差です。しかし、学年間ではかなりの差が生まれます。例えば、小学6年生が、小学3年生の授業を受けたとしたら、難なくトップの成績となるでしょう。

さて、勉強を楽しくするための一つの秘訣に、『自分が伸びている実感を体験させる』という方法があります。人間は、他の人と競争するときに、勝つことは難しいのです。究極的には勝てない、と思ってよいかも知れません。おそらく、世の成功している、勝利していると思われる人であっても、自分自身で勝利した、という自覚を持っている人はほとんどいないであろうと思います。しかし、自分の成長を確認することはできます。意識的に考えないと分からないことが多いことですが、「以前の自分と比べるとずいぶん成長したな…」という感覚は、誰もが持てることであり、原動力になります。これを勉強に当てはめ、成長感覚を子どもに自覚させるのです。

子どもたちは、自分が成長してしていることを確認できれば勉強が楽しくなります。あたかも、ゲームをしているときに、どんどん面をクリアして、新しいステージにチャレンジするような、そんな感覚を持つことができます。

これを上手に使う方法があります。2年生で覚える『九九暗唱』です。皆さん方の中にも、「子どものときにやった、やらされた…」という方も多いかも知れません。昔、トイレの壁に張ったりしておぼえたなあという親御さんもいると思います。遊び感覚で、「九九を三の段からいってみよう!」、「さんいちがさん、さんにがろく、さざんがく…」お子さんが途中で詰まってもすぐ答えを教えるのではなく、もう少し…!と遊び感覚で答えを引き出すんです。出来たら、次の先を引き出しハイタッチ。お子さんのコミュニケーションになります。

自分自身が成長を確認し、伸びている実感を持たせることで、子どもはとて大きな力を発揮します。だから、もちろん、出来たらほめて先を伸ばすなどいろいろな工夫をしてくださいね。

～やる気を引き出す～

やる気を引き出し、持続することができればその子の持つ課題の90%は解決したも同然だと言われます。

小学校低学年までのやる気と、高学年からの向上心は大切だと思いつつも、どうしたら身に付くかの具体的な方法が分りづらいものです。よく「子どもを誉めればよい」と言われます。もちろん原則的にはその通りですが、毎日生活の中で向き合うわが子にかけられる誉め言葉を探すのも大変なことです。今日から簡単に家庭で実践できて子どもも、声をかける自分も変わるという方法を次にご紹介します。幼児から低学年の子ども向けです。

- 1、(明るく)「お母さんといっしょにやろうね。」
- 2、「すごいねえ」、「ありがとう」
- 3、(こころから穏やかに)「きょうはもういいよ。」

「いっしょにやろうね」はなかなかプリントへの取り掛かりができないときです。つい、声を荒げてしまいそうですが優しく明るく声をかけます。

「ここまでできたね、すごいねえ。」「きょうもがんばってくれているね、ありがとう。」はプリント学習の途中でかける言葉です。字が丁寧でなかったり、ぐずぐずして20分、30分経ったのに2~3枚のプリントしかできていないと思ったとしても、やる気を引き出す声掛けはこの2語が最適です。

怒っても急かしても、プリント学習がスムーズに進むものではありません。疲れたり泣いたりしてできない日もあります。そのときは優しく「きょうはもういいよ。またあしたいっしょにやろうね。」で心を解放します。

さあ、今日から始めてみましょう。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします。7月分の会費引き落としは6月29日(月)です。よろしくお願いたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までに申し出下さい。最近 教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないと言われました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。